

トヨタ財団レポート

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT

ISSN 0389-1984

163 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル37F
Phone: 03-3344-1701~3
Fax: 03-3342-6911

October 1991

No.58

- 2 研究助成の選考を終えて
- 3 研究助成対象一覧
- 6 市民活動助成の選考を終えて、助成対象一覧
- 7 国際助成の選考を終えて
- 8 国際助成対象一覧
- 11 「隣プロ」翻訳出版促進助成の運営および選考について、他
- 13 最近の報告書から、新刊紹介
- 16 公募のお知らせ、他

第61回理事会を開催

助成対象に211件を決定

去る10月3日、当財団の第61回理事会が都内にて開催され、1991（平成3）年度の各助成対象に関する審議と決定が行われた。その結果、研究助成、市民活動助成（第1期）、国際助成など合計211件、総額にして4億1,421万円の助成が決定された。

おもな内容は以下のとおり。

■研究助成は59件、2億120万円

助成対象の内訳は、個人奨励（第I種）研究が27件、試行・準備（第II種）研究が20件、総合（第III種）研究が12件となっており、申請総数762件から割り出した採択率は7.7%と、昨年度とほぼ同様のかなり狭き門となった。対象となった研究課題は今回も多彩であるが、内容的には、学術研究はもとより、社会に対する明確な問題意識に根ざした研究も多く、現代社会の抱える問題の広さと深さを実感させる結果となっている。

（P.2～5参照）

■市民活動助成（第1期）は13件、2,000万円

本助成については、第1期分として47件の申請があり、このうち13件が助成の対象となった。活動記録の作成や出版、会議やフォーラムの開催、調査・研究など、その内容も多岐にわたるものとなった。（P.6～7参照）

なお、第2期分の公募は12月15日まで行っている。詳細は、「市民活動助成係」まで。（P.16参照）

■国際助成は101件、1億2,000万円

東南アジア諸国などにおける各地の「固有文化の保存と振興」に関する（現地の人々による）研究や事業に重点をおいた本助成では、101件がその対象となった。

なお、このうち35件（合計1,000万円）については「インドネシア若手研究者奨励研究助成」の助成対象。（P.7～11参照）

■「隣プロ」翻訳出版促進助成は27件、5,171万円

日本と他のアジア諸国、および、アジア諸国相互間の理解促進を目的とした「隣人をよく知ろう」プログラムでは、書籍の翻訳・出版の促進のための助成を行っている。

今回の助成対象の内訳は、“日本向け”が13件、“東南アジア・南アジア向け”が6件、“東南アジア・南アジア相互間”が8件となった。（P.11～13参照）

■その他

「計画助成」および「成果発表助成」の対象として、合計11件、2,130万円が決定した。

第17回助成金贈呈式

1991年度の助成金贈呈式を、去る10月15日（火）午後1時30分より東京・新宿区内のホテルにて行った。助成の対象とされた方々や財団関係者など、多くの出席者を迎えての開会となった。

豊田英二会長の挨拶、各選考委員長による選考経過の報告の後、会長より、各代表者5名にそれぞれ助成金贈呈書が手渡された。

1991年度研究助成の 選考を終えて

研究助成選考委員長 飯島 宗一

◎選考経過について

去る10月3日の理事会により本年度研究助成の対象として59件、総額2億120万円の採択が決定した。応募総数 762件、採択率 7.7%という厳しい競争を経ての結果である。この間、10名の選考委員と6名の専門委員により綿密な評価作業と、選考委員会での長時間にわたる審議が行われてきたが、その経過の概略をご報告する。

公募は4月1日から5月31日までの間、「新しい人間社会の探究」を基本テーマに、「高度技術社会への対応」と「多文化社会への対応」の2つの重点課題を掲げて行われた。研究の種別としては個人の若手研究者の奨励を目指す第Ⅰ種研究、グループによる試行・準備のための第Ⅱ種研究、総合的展開を目指す第Ⅲ種研究の3つがある。公募に際してのこれらの枠組みはここ数年来継承してきたものである。

応募総数の762件は昨年度に比べて20件の増加であるが、種別に見ると第Ⅰ種（個人奨励）研究が昨年度の337件に対し51件増の388件、逆に第Ⅱ種（試行・準備）研究では昨年度の358件に対して32件減の326件、第Ⅲ種（総合）研究では昨年度47件とほぼ同じ48件となっており、第Ⅰ種研究での増加が目立っている。

選考の体制や仕組みもほぼ昨年度に準じ、6月末の準備会、7月末の第Ⅰ種研究の専門委員会、第Ⅱ種および第Ⅲ種研究の第1回選考委員会、8月末の第2回選考委員会を重ねて逐次候補の絞り込みを行った。この間には申請書による評価だけでなく、特に継続の案件に関しては7月末の経過報告会での報告内容や、これまでの経過報告書なども含めた検討が行われた。

◎選考結果と採択課題について

採択件数と金額は冒頭に述べたとおりであるが、種別に見ると第Ⅰ種が27件、4500万円、第Ⅱ種が20件、6510万円、第Ⅲ種が12件、9110万円となっている。

第Ⅰ種研究では研究者の多彩さがひとつの特徴である。外国人の採択は5件あり（アメリカ2、中国2、ポーランド1）、いずれも外国人の視点からみた日本の文化、社会の研究としてその可能性に期待したい。海外在住の日本人も8件採択された。また、27件中13件は女性によるもので

ある。継続申請も何件か寄せられたが、第Ⅰ種の場合なるべく多くの方々に機会を提供したいということで継続はとりわけ狭き門となっている。今回継続で採択となったのは2件で、いずれも前年度より前に助成を受け、その後独力で成果を積み重ねてきたもので、No.1（一覧表の課題番号）のようにスケールの大きなフィールド研究もある。

第Ⅱ種、第Ⅲ種の共同研究では、例年同様テーマの多彩さが際だっている。また、選考において学際性、国際性、職際性が重視されていることもあって共同研究体制の面でも多様なメンバー構成となっている。国際協力の観点に立った研究も、No.34、35、39、40、45、48、55、57と数多い。最近のヨーロッパ情勢の変動に呼応したNo.29、38、44などの研究には日本人研究者としての寄与が期待される。また、No.50、51ともに急増する在日外国人の抱える問題に継続的に取り組むもので、成果の社会的インパクトも大きいものと予想される。このほか紙数の都合で全ての研究を紹介することはできないが、いずれも重要な課題に精力的に取り組むものである。

民間財団の使命は政府や企業とは異なる民間非営利という独自の立場で社会に貢献することであり、研究助成もそのためのひとつの手段である。基礎的な学術研究はもとより重要であるが、社会に対する明確な問題意識に根ざした研究を支援することにより、それらの研究成果が現代社会の抱える様々な問題の理解や解決に寄与することも民間財団の助成活動においては大いに留意すべき点であり、助成を受けるひとつひとつの課題にこのような財団としての期待が込められていることも申し添えたい。

1991年度 研究助成対象一覧

第1種(個人奨励)研究 [27件:4,500万円]

注 研究題目末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。
助成金額下の()は、助成期間を示す。無記入は1年間。

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
1	ケニアの国立公園におけるアフリカゾウと人間の緩衝地帯設置に向けての技術的研究 - 栄養分析を中心として- (継2)	中村 千秋	ナイロビ大学大学院 理学部 動物学科	200
2	中国の国民国家形成過程における新疆の民族問題に関する研究 - トルコ系住民の意識と行動を中心として-	新免 康	東京外国語大学	180
3	医療と信仰の図像学的研究 - 奇病をめぐる社会の反応とその造形表現について-	神原 正明	神戸学院大学 人文学部	180
4	ポーランドにおける未公開浮世絵コレクションに関する研究	ジョンデク ヴィエスワフ	アダム・ミツキエヴィチ大学 歴史学部	180
5	日本における桶・樽文化の成立過程に関する研究 - 日本各地に伝承されている製作技術、工具、使用方法の比較調査を通して-	石村 真一	郡山女子大学附属高等学校	190
6	水田漁撈の研究 - 稲作・漁撈生業複合からみた水田における人と自然との共生関係に関する民俗学的研究-	安室 知	横須賀市自然・人文博物館	170
7	日系アメリカ人強制収容補償の民族的社会的意義に関する研究 - 二世・帰米・三世へのインタビュー調査を中心に- (継2)	竹沢 泰子	筑波大学	150
8	都市化(首座都市性現象)に伴う民俗文化と近代家族の変容過程に関する研究 - 親子心中を分析視角とした韓国都市フィールド調査に基づく通文化比較-	岩本 通弥	東海大学 文学部 文明学科	180
9	現代における日本人と朝鮮人の生活様式及び文化心理に関する文化人類学的比較研究 - 「在日朝鮮人」を中心として-	蘭 明	東京大学 文学部 中国文学 科	170
10	日本におけるエイズ・脳死をめぐる医療と人権の「法と政策」研究	エリック A. フェルドマン	東京大学 社会科学研究所	190
11	ジョージ・F・ケナンの政治思想と世界秩序 - 古典的リアリズムの政治思想と第二次世界大戦後の世界-	遠藤 誠治	成蹊大学 法学部	180
12	中国における日本とアメリカの企業文化の受容に関する実証比較研究 - 中日と中米合併企業における文化的衝突と適応現象の異同を中心に-	楊 杜	神戸大学大学院 経営学研究 科	150
13	オーストラリアにおけるアジアに関する教育の発展 - 教育を通じてのアジアへの接近-	鎌田 真弓	ニューサウスウェールズ大学	140
14	資本主義化にともなう旧東ドイツ地区(ワイマール市)の青年層の失業・不適応問題と再統合に関する実証的研究	高橋 満	東北大学 教育学部	180
15	日本における外国人メディアの展開と文化形成に関する研究	町村 敬志	筑波大学 社会科学系	150
16	アメリカ日系社会における日系市民生活援助センターの役割 - 障害児の親が抱える問題を中心に-	要田 洋江	大阪市立大学 生活科学部	100
17	カナダにおける中国系移民の民族的アイデンティティに関する研究 - 香港移民の流入による変化に対応して-	山本須美子	九州大学 教育学部附属比較 教育文化研究施設	130
18	モルドヴァにおける民族関係と同地域をめぐるソ連ルーマニア関係に関する研究	六鹿 茂夫	埼玉女子短期大学	180
19	男女平等化政策決定過程の比較研究 - 日本とスウェーデン-	齋藤 英之	上智大学大学院 外国語学研 究科	160
20	日本の中学校における社会化と社会統制のパターンに関する研究	リング・ダイアン・マッセル ホワイト	京都大学 比較教育学部	160

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
21	ブラジル日系人の音楽生活に関する研究 - 多文化のなかの日本音楽 -	細川 周平	サンパウロ人文科学研究所	180
22	占領期日本の台湾植民地政策と台湾少数民族の民族文化伝達に関する歴史民俗学的研究 - 特に近代化過程における国家政策と民族宗教の維持・伝達に関連して -	原 英子	九州大学大学院 文学研究科	100
23	ネパールにおける複数政党制の復活とそのインパクト - 1990年民主化運動を中心に -	安野 早己	ロンドン大学 アジア・アフリカ研究所	160
24	在宅痴呆老人とその介護者のサポートネットワークの構造についての研究 - 同世代介護者と次世代介護者の比較 -	山田 裕子	ミシガン大学大学院	180
25	土方巽の舞踏の生成と変遷に関する研究 - ムーブメント、作品そのものに即して基本原理と様々な影響を探る -	栗原奈名子	ニューヨーク大学大学院	180
26	末期医療における真実告知 - 医師の行動および倫理観の日米文化比較研究 -	宮地 尚子	ハーバード大学 法学校	200
27	明治末期留日中国人女子学生についての歴史的考察 - アジアの近代化における日本の役割の再評価 -	葛目 至	ペンシルベニア大学大学院 歴史学研究科	180

第II種 (試行・準備) 研究 [20件: 6,510万円]

28	オーストラリアのアジア系移民に関する国際共同研究 - アジア系移民を通じて見る多文化社会の動態 -	デビッド F. イップ 他 2名	クィーンズランド大学	350
29	ヨーロッパ周縁地域における民族問題と移民・難民 - 「国家」イデオロギーの再検討へ -	畑中 幸子 他 5名	中部大学 国際関係学部	380
30	国際化時代の学校カリキュラムの比較研究 - 日本と香港とシンガポールの国際バカロレア教育の現状の比較調査研究 -	浅沼 茂 他 10名	名古屋大学大学院 国際開発研究科	300
31	春成家累代墓の考古学的・人類学的研究 - 江戸～現代墓地発掘の人骨からみた血縁関係 -	春成 秀樹 他 12名	国立歴史民俗博物館 考古研究部	390
32	分子進化中立説の受容についての文化論的考察 - 日本・米国・西欧・ソ連の比較 -	斎藤 成也 他 3名	国立遺伝学研究所	300
33	戦後日本における民間農法の展開に関する総合的研究 - 持続可能な農業への新たな道を求めて -	中島 紀一 他 13名	筑波大学 農林学系	350
34	インドネシア伝統工芸に関する日本・インドネシアの共同研究 - ジャワ更紗を中心とする歴史・意匠・技術の総合調査 -	小笠原小枝 他 8名	東京国立博物館 東洋課	360
35	サヘル地域における農業生産システムの変化とそれに伴う砂漠化・飢餓問題の克服に関する実証的研究	竹谷 裕之 他 4名	名古屋大学 農学部	300
36	民族国家を越えて - 日本生まれ韓国人のアメリカ体験 -	鄭 大均 他 1名	啓明大学校 日本学科	150
37	児童虐待に関連した自助グループの機能に関する研究	斎藤 学 他 4名	東京都精神医学総合研究所	200
38	異文化共存の可能性から見た、ドイツ統一の過程に伴う外国人労働者に対するドイツ人の意識の変動および今後の展開	三島 憲一 他 7名	大阪大学 人間科学部	350
39	発展途上国における突然死の実態に関する研究 - タイ東北部農民の出稼ぎ労働の事例を中心に -	遠藤 仁 他 9名	東京大学 医学部	300
40	ネパールにおける科学・数学カリキュラムの改善をめざす - 日常生活の中での知識・認識の研究 -	上野 直樹 他 6名	国立教育研究所	340

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No. 58

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (万円)
41	開かれた地域国家の構築のための概念設計と政策研究 - 日本最西南端、与那国島のミニ社会実験アクション・リサーチ	吉川 博也 他13名	筑波大学 社会工学系	390
42	日本における異言語・異文化間接触の社会言語学的研究 - 在日韓国・朝鮮人の言語生活の実態調査を中心として-	任 榮 哲 他 5名	韓国慶北大学校 人文大学	360
43	人間とコンピュータとを統合化した先端的生産システム技術の構築に関する国際的共同研究	長町 三生 他 9名	広島大学 工学部	390
44	1989-90年革命の展開に伴う東欧の地方社会の変容に関する研究	南塚 信吾 他14名	千葉大学 文学部	400
45	ローベルト・シューマンの作品原典の文献学的研究 - クラカウ、ツヴィッカウ、ウィーンに現存する出版社との往復書簡を通して-	前田 昭雄 他 4名	チューリッヒ大学 第一哲学部	300
46	中国における日中交流の歴史的遺跡に対する考察と研究 - 日中共同研究を通じて- (継2)	夏 応 元 他 8名	中国社会科学院歴史研究所	260
47	中国都市環境の改善および環境科学技術の発展促進の研究 - 四川省成都市を中心としたケーススタディー	山田 辰雄 他 9名	慶応義塾大学 地域研究センター	340

第Ⅲ種 (総合) 研究 [12件: 9, 110万円]

48	熱帯林業の機械化に伴う生活変容と健康影響に関する研究 - 熱帯林業における労働衛生の構築をめざして- (継2)	二塚 信 他12名	熊本大学 医学部	860 (2年)
49	先端基礎科学分野における国際融合 - 大望遠鏡ハワイ設置計画をめぐる文化制度上の諸課題- (継2)	小平 桂一 他10名	国立天文台	600 (2年)
50	来日アジア・アフリカ系外国人の生活適応と日本人との共生に関する研究 (継2)	山崎喜比古 他15名	東京大学 医学部 保健社会学教室	750 (2年)
51	ブラジルからの日系出稼ぎ労働者に関する総合的研究 - 送出国ブラジルと受入国日本の双方の視点から- (継2)	渡辺 雅子 他11名	明治学院大学 社会学部	1100 (2年)
52	ヤシ科植物の多様な生産物に見る日本とアジア・太平洋 - その生産・流通・消費の現場から- (継2)	鶴見 良行 他18名	龍谷大学 経済学部	700 (2年)
53	海外所在中国絵画の総合的調査 (継2)	戸田 禎佑 他 6名	東京大学 東洋文化研究所	500 (2年)
54	日本における性別役割分担の史的的研究 - 男性主導社会内での女性文化のあり方- (継2)	脇田 晴子 他19名	大阪外国語大学 日本語学科	850 (2年)
55	中国・西安市における北院門歴史地区の保存と再生に関する日中共同研究 (継2)	大西國太郎 他 8名	京都芸術短期大学 造形芸術学科	1100 (2年)
56	長期ケア老人のケースマネジメント試行とその経済的社会的評価に関する研究 (継2)	前田 信雄 他 8名	札幌医科大学 医学部	750 (2年)
57	インドネシア・タイにおける精神遅滞者への地域生活援助に関する実践的研究 (継2)	岩崎 正子 他 8名	アジア発達障害研究会	800 (2年)
58	第二次世界大戦中の日印関係およびその影響 - 南アジアの国民国家形成と日本- (継2)	長崎 暢子 他 9名	東京大学 教養学部	650 (2年)
59	子どもの権利の国際的展開とわが国社会の対応 - 子どもの権利条約とその具体化に関する職際的・総合的研究- (継2)	石川 稔 他10名	上智大学 法学部	450

研究助成合計

59 件

20,120

1991年度 市民活動助成（第1期）の選考を終えて

市民活動助成選考委員長 栗原 彬

◆13件が第1期の助成対象に

本年度の市民活動助成については、昨年度に引き続き、市民による“草の根”活動全体の強化・促進に役立つ種々の計画を支援することを目的としている。

今回は、この4月1日から6月20日にかけて公募し、応募のあった第1期分47件の申請について選考が行われた。その結果、選考委員会での慎重な審査およびその後の理事会での審議・決定を経て、別紙の通り合計13件、2,000万円が助成の対象となった。

◆今回の申請の特徴

今回の申請全体に関する特徴としては、テーマに多様性が出てきたことが挙げられよう。

応募の計画内容からみた場合、生活現場や地域など、ごく身近なところから、社会や生活全体のあり様を考え、(国際的に)行動していこうとするもの、および、こうした活動を支えていくための各種サポート・システムを検討し

ていこうとするものなど、活動自体の広がりとともに、そのための基盤づくりにも注目していこうとする動きが見られるようになってきた。こうした“動き”は、まだ小さいけれども、今後の社会にとって重要な示唆を含むものとして、これからも大事にしていきたいものである。

◆選考について

さて、選考の結果は先に触れた通りであるが、これらは、活動の体験を他(の団体等)と共有することを目的とした記録の作成や出版と、従来の国内での活動をベースとした国際的な行動、および、多くの団体が活動を円滑に行っていく上での「支え」となるもの、に大別できるだろう。いずれも、今後の市民による活動の広がりと深さを追求していく際に欠かせない興味深いものである。

これらと比較した時、他の34件については、発想は良くても内容的に迫力が感じられなかったり、焦点が明確でなかったりするものが多く、結果として高い評価が得られず、残念ながら採択には至らなかった。なお、これらの申請のうちいくつかについては、何等かの点で評価する声もあったり、計画を練り直した上で再度申請されることを期待する旨の意見が出されたことも付け加えておきたい。

1991年度 市民活動助成対象一覽

No	テ ー マ	代 表 者 名	代 表 者 所 属	助成金額 (万円)
1	「大阪精神薄弱養護学校造形教育研究会」の活動に関する記録の出版	大志茂善平 他18名	大阪精神薄弱養護学校造形教育研究会	110
2	「筑摩工芸研究所」の活動に関する記録の作成 —障害者が地域で生きる意義と方法—	新井 俊雄 他33名	筑摩工芸研究所	170
3	障害者の自立生活活動の都道府県レベルでのネットワーキングの調査と展開	押田 越夫 他29名	「社団法人 埼玉社会福祉研究会」設立準備会	150
4	「宍道湖・中海の淡水化に反対する住民運動」の活動に関する記録の出版	保母 武彦 他6名	中海・宍道湖の淡水化に反対する住民団体連絡会	100
5	第2回アジア女性会議「創りだそう女たちのアジアを」の準備	船橋 邦子 他14名	Awan Japan (アジアの女性研究と行動ネットワーク)	160
6	都市再生のまちづくり運動と小樽運河保存運動およびその後の状況に関する記録の作成	峰山 富美 他9名	小樽のまちづくりを考える会	160
7	「韓国スミダ労組訪日代表団の受け入れ、支援」の活動に関する記録の出版	大倉 一美 他24名	進出企業問題を考える会	100
8	チェルノブイリ原発事故で放射能汚染された地域に住む子供たちの、日本での放射能疎開	鎌田 一 實 他26名	日本チェルノブイリ連帯基金	180
9	水をめぐるフォーラム—琵琶湖の経験を全国に、世界に—の運営	藤井 絢子 他9名	滋賀県環境生活協同組合	150
10	NPO (Non-Profit Organizations) の育つ社会環境づくりに向けての調査・研究	米田 清治 他8名	NPO研究会	200

to	テ	マ	代 表 者 名	代 表 者 所 属	助成金額 (万円)
11	9 2 国連「環境と開発」会議へ向けてのNGO報告書の作成		岩崎 駿介 他64名	9 2 国連ブラジル会議市民連絡会	200
12	野生動物の保護に取り組むネットワークづくり		本谷 勲 他19名	野生生物保全論研究会	170
13	障害者の市民運動を基本にした日本型自立生活援助センターの設立・運営に関する共通基盤の探求		谷口 明広 他 7名	障害者自立生活問題研究所	150
市民活動助成合計			1 3 件		2,000

1991年度国際助成の選考を終えて

国際助成選考委員会委員長 石井米雄

◎選考結果の概要

国際助成に関する打診は一年間を通して受け付けているが、選考は7月および9月の2回の選考委員会で行われた。今回の本助成への打診は420件あったが、そのうち本助成の対象地域（東南アジア）と対象テーマ（固有文化の保存と振興）からみて、選考委員会の審査の対象となった申請は94件、一方、審査の対象とならないものが326件あった。

そして選考の結果、66件、795,000ドルが採択となった。その国別内訳は、インドネシア14件、ラオス3件、マレーシア5件、ネパール1件、フィリピン15件、スリランカ1件、タイ9件、ヴェトナム18件となっている。

◎選考方法について

国際助成では、選考委員会の審査の対象となる申請については、すべて財団のスタッフが申請者にインタビューし、補足情報を収集することになっている。

選考委員会では、申請書とスタッフからの報告をもとに、7人の選考委員で選考を行った。これらの委員は東南アジア各国の研究者であると同時に、この助成が対象としているテーマによってカバーされる専門分野（ディシプリン）の専門家である。審査は2つの視点、すなわち、当該国の研究状況の中での申請プロジェクトの意義、さらに専門分野の方法論の適切性、から行われる。限られた時間内に多くの申請を効率よく、しかも丁寧に審議することが要求されるが、この点は微妙なバランス感覚が必要である。

◎今年度の傾向について

今年度の著しい傾向は、ヴェトナムへの助成件数が最多数18件となったことである。選考委員会の審査の対象となった申請件数も34件と最も多かった。1件当りの助成金額を抑えたため助成金額の合計は第2位であったが、ヴェトナムの研究者の熱意が反映されているものと考えられる。

助成対象者の所属機関もヴェトナム国立社会科学センターだけでなく、昨年引き続きハノイ大学の研究者が助成対象となり、今年度はホーチミン大学の研究者も初めて助成対象となった。助成対象者の所属機関がこのように多様化して行くことは、ヴェトナムの社会の言わゆる『改革』が進んでいることを示しているようである。

フィリピンは助成金額の合計が第1位になったがこれは継続研究の最終年になるプロジェクトがそろったためである。これらの研究成果はすべて本の形で出版される予定である。

◎インドネシア若手研究者奨励研究助成について

インドネシアの若手研究者（原則として35歳以下）による個人研究的に絞ったこのプログラムは、国際助成の枠内に位置づけられるが、別のシステム（公募制）と体制で運営・選考が行われる。

本年度の応募件数は528件で、インドネシア人の学者3人と日本人のインドネシア研究者3人の合計6人の委員による審査が行われた。その結果35件、72,300ドルが採択された。本年度は、はじめてインドネシア側と日本側の6人の委員が集まり会合を持って審査を行った。この会合では、毎年特定の地域（通常はインドネシアの州を単位）を研究するグループと特定のテーマを研究するグループにまとめて、これらについては適当な人（通常は委員の中から選ぶ）が、研究の途上で指導を行うほか、最終的に一冊の本にまとめて出版することを目指すこととなった。本年度の地域は、東ジャワ州（8件）、テーマは文学の研究（9件）とすることとなった。それぞれ2～3名の担当委員も決まった。

そのほか、本年度の特徴としては女性が7名（全体の20%）選ばれたこと、本年度より新たに応募を認めた海外の大学の大学院に学ぶインドネシア人研究者の修士・博士論文のための研究が2件（ロンドン大学とマレーシア国立大学）選ばれたことがあげられる。この2件を含めて、修士・博士論文のための研究は14件であった。

1991年度 国際助成対象一覧

インドネシア [14件: 94,200ドル]

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
1	ジャワの村落盗賊: 1850年-1942年 [継-2]	スハルトノ	ガジャマダ大学文学部歴史学科 講師	8,400
2	南スラウェシの村落社会の社会・文化変容 [継-2]	イドゥルス A.	ウジュンパンダン教育大学社会科学教育学部 講師	8,100
3	スダ文化百科事典 [継-2]	アイップ R.	作家	17,900
4	バンジャル古語の発掘、収集および記録 [継-2]	アブドゥル D. H.	ランブン・マンクラット大学教育学部 講師	3,000
5	サムドラ・パサイの歴史: インドネシアの最初のイスラム王国、1259年-1525年 [継-3]	T. イブラヒム A.	ガジャマダ大学歴史学科 教授	7,900
6	言語変化: ランブン、スラウェシ、ティモール、スンパワに移住したバリ人のケース [継-3]	I. G. M. スチャジャ	ウダヤナ大学文学部英語学科 講師	6,800
7	中部マルク、セラム島のアルネ族の経済関係 [継-2]	エドアルド M.	パティムラ大学教育学部 講師	3,800
8	近代化にあるサダン・トラジャ族の居住文化	A. バグス P. W.	バンドン工科大学建築学科 講師	8,200
9	フローレスの地方語(リオ語、シッカ語、ンガダ語)の機能	アロン M. ムベテ	ウダヤナ大学文学部 講師	3,600
10	暴力、抵抗と反乱: 1942年から1962年のアチェ社会史研究	M. イサ S.	シャクアラ大学教育学部 上級講師	4,000
11	バリの貝葉文献ロンタルのマイクロフィルム化準備	I. G. N. R. ミルシャ	バリ州立バリ文化記録センター 所長	3,700
12	西ジャワ、タラゲンのチプタット地域の宗教、社会変化に関する研究	アミヌディン R.	シャリフ・ヒダヤトゥラー国立イスラム高等学院 講師	3,200
13	西ジャワのバンテン遺跡発掘成果報告書および伊万里焼図録の編集・印刷	ハサン M. A.	国立考古学研究所 所長	11,400
14	歴史ジャーナル『歴史: 思想、再構築、認識』の発行	A. B. ラピアン	インドネシア科学院 上級研究員	4,200

ラオス [3件: 47,000ドル]

15	カンボジア語-ラオ語辞書の編纂 [継-3]	マハ・カンパン V.	国立社会科学院 副院長	2,300
16	貝葉文献のインヴェントリー作成 [継-4]	ダラ K.	文化省ヴァナシン雑誌 編集長	42,200
17	ラオ慣習法貝葉文献の翻字	サムリット B.	情報文化省文学局 アドヴァイザー	2,500

マレーシア [5件: 46,400ドル]

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額
18	陸軍元帥ピブソンクラームの生涯と時代-最も長く務めたタイの首相 [継-2]	コブクワ S. P.	マレーシア国立大学歴史学科 準教授	1,600

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.58

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額
19	マレーシアの8家族：民族とマレーシアの開発がもたらした社会・経済的結果 [継-2]	アジザー bt. K.	マラヤ大学文化人類学科 準教授	18,500
20	マレーシア史のモノグラフ：1900年-1941年 [継-3]	クー K. K.	マラヤ大学文学部歴史学科 教授	4,200
21	東南アジアの音楽：東南アジア音楽の研究に関するワークショップ	イスマイル H.	マレーシア国立大学マレー語 研究所 所長、教授	7,900
22	ウィリアム・ハントコレクションによる1940年代および1950年代のマレー社会に関する予備調査	ザキア H. bt. A .H.	マレーシア国立公文書館 所長	14,200

ネパール [1件：11,800ドル]

23	古典ネパール語辞書編纂 [継-7]	P. B. カンサカール	ネパール語辞書委員会 事務局長	11,800
----	-------------------	--------------	--------------------	--------

フィリピン [15件：270,000ドル]

24	マラナオ族の叙事詩『ダランガン』の出版 [継-5]	M. D. コロネル	ミンダナオ州立大学研究センター 教授	14,400
25	スペイン植民地時代に関する未出版の古文書の調査、翻字、翻訳、出版 [継-3]	V. B. リキュアナン	フィリピン歴史文化保存ナショナル・トラスト 副会長	30,300
26	ミンダナオの山岳民族の環境保全に関する民族生態学的慣習 [継-2]	H. K. グロリア	アテネオ・デ・ダバオ大学社会科学部歴史学科 教授	23,500
27	マノボ族の叙事詩『ウラヒーガン』の記録、翻訳、編集、出版 [継-5]	E. G. マキン	シリマン大学研究センター コーディネイター	23,900
28	フィリピンの各言語による文学のピリピノ語への翻訳・出版 [継-3]	E. M. パチェコ	アテネオ・デ・マニラ大学出版会 所長	23,100
29	フィリピンの国家組織発達の世界・政治および文化的側面：1946年-1990年 [継-2]	E. R. サンタ・ロマナ	フィリピン大学アジア研究所 助教授	28,000
30	フィリピン諸語辞書 [継-6]	E. コンスタンティーノ	フィリピン大学社会科学・哲学学部言語学科 教授	33,300
31	フィリピン研究のための固有の資料 [継-2]	J. M. フランシスコ	アテネオ・デ・マニラ大学ロヨラ神学校 助教授	12,900
32	フィリピンの水にまつわる伝承：モスレムを中心として	A. T. マンプアイ	ミンダナオ州立大学 講師	8,500
33	イロイロ州の20世紀の経済史	H. F. フンテッチャ	フィリピン大学ヴィサヤ分校 西ヴィサヤ研究センター 所	6,200
34	モロランドの20世紀の民族史	F. V. マググレーナ	ミンダナオ州立大学研究センター 所長	11,500
35	生態と環境の問題への社会・文化的アプローチ：イフガオ族のライス・テラスの事例	S. D. マヒウォ	フィリピン大学アジア研究所 助教授	19,500
36	ラ・ウニオン：州の成立、1850年-1990年	A. O. メインバン	ニュー・エラ・カレッジ 学長	7,500
37	フィリピン南部・スリガオの考古学、先史、民族史	L. E. パウゾン	フィリピン社会科学協議会理事 会 委員長	23,100
38	エリオ・コレクション：ミサミス・オリエンタルの地方史のための資料	F. R. デメトリオ	セイヴィヤー大学博物館 館長	4,300

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.58

スリランカ [1件: 8,800ドル]

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
39	13世紀から15世紀の中世の芸術と建築におけるスリランカとタイの相互影響	W. M. シセリナ	ペラデニヤ大学社会学部 助教授	8,800

タイ [9件: 131,200ドル]

40	タイ法制史: シヤム王国と南部王国の法的システムの比較研究 [継-2]	ピティナイ C.	タマサート大学法学部 助教授	10,200
41	タイにおけるホアピン人の研究 [継-2]	スリン P.	シンラパコン大学考古学部 准教授	2,400
42	ランナの12ヵ月の伝統儀礼研究成果の出版 [継-2]	ソンマイ P.	チェンマイ大学社会・人類学 部 准教授	6,200
43	現代クメール語との関連における古代・中世クメール語辞書 [継-2]	ウライシー V.	シンラパコン大学考古学部 助教授	11,400
44	ランナタイおよびシブソンパンナの歴史資料の編纂: 1200年-1949年 [継-3]	M. R. ルチャヤ A.	チェンマイ大学芸術文化セン ター 所長	36,100
45	固有の知識体系の活力と再生への展望 [継-3]	チャクナ B.	チュラロンコン大学社会研究 所 研究員	18,800
46	アホム・ブランジ文献の研究	レイヌー W.	アユタヤ歴史研究センター 講師	11,600
47	チェンマイーランブン盆地の古代集落	サラスワディー O.	チェンマイ大学人文学部歴史 学科 助教授	16,500
48	イサン・シム: 東北タイの仏教寺院	ウィロート S.	コンケン大学建築学部 講師	18,000

ヴェトナム [18件: 185,600ドル]

49	ヴェトナム百科事典 [継-4]	P. N. クウォン	国立ヴェトナム百科辞典編纂 センター 教授	20,100
50	ヴェトナムの仏教寺院 [継-2]	N. D. ディウ	ヴェトナム国立社会科学セン ター社会科学出版局 局長	19,300
51	15世紀から18世紀のヴェトナム封建制度の法律とその慣行 [継-2]	D. T. ウック	ヴェトナム国立社会科学国家 と法研究所 所長	11,800
52	村落コミュニティの心理とヴェトナムの文化生活におけるその遺産 [継-2]	D. ロン	ヴェトナム国立社会科学セン ター社会心理学部 部長	12,500
53	ヴェトナムとタイの社会科学者のセミナー: ヴェトナムとタイの伝統と現在-成果の出版 [継-2]	P. X. ナム	ヴェトナム国立社会科学セン ター 副所長	2,000
54	ヴェトナムのフォン・ウオック (村の法律) についての文書の保存と記録 [継-3]	N. D. トン	ヴェトナム国立社会科学セン ター社会科学情報研究所 所	20,000
55	北ヴェトナムデルタ地域の商業を主たる生業とする村 [継-2]	P. H. レ	ハノイ大学ヴェトナム研究協 力センター 教授	6,000
56	ヴェトナムのドンソン文化	H. V. タン	ヴェトナム国立社会科学セン ター考古学研究所 所長	12,000
57	オケオ文化	L. X. ディエム	ヴェトナム国立社会科学セン ター ホーチミン市社会科学	13,100
58	ヴェトナムの伝奇物語	N. H. チ	ヴェトナム国立社会科学セン ター文学研究所 教授	4,200

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
59	10世紀から19世紀半ばまでのヴェト族の移住の歴史	D. トゥ	ヴェトナム国立社会科学センター人口開発研究センター	7,500
60	1975年以降のホーチミン市における開発に対する華人の社会的ポテンシャル	M. ドゥオン	ヴェトナム国立社会科学センター 所長代理	4,000
61	北ヴェトナムにおける高齢者と社会保障体系	B. T. クオン	ヴェトナム国立社会科学センター社会科学研究所 教授	10,700
62	漢字で書かれたヴェトナム小説の総合コレクション	T. ギア	ヴェトナム国立社会科学センター ハンノム研究所 教授	9,000
63	ヴェトナム語慣用語辞典	H. V. ハン	ヴェトナム国立社会科学センター言語学研究所 所長	8,800
64	ハ・ナム・ニン沿岸地域における開墾と新しい村の設立の歴史	P. D. ドアン	ハノイ大学歴史学部 教授	6,000
65	現代チャム語-ヴェトナム語、ヴェトナム語-チャム語辞書	B. K. テ	ホーチミン市大学ヴェトナム東南アジア研究センター	6,400
66	タイおよびインドネシアの祭研究の調査	L. H. タン	ヴェトナム国立社会科学センター 副所長	12,200
国際助成小計			66 件	795,000
67 101	インドネシア若手研究者奨励研究助成(対象一覧は省略)	35 件		72,300
国際助成合計			101 件	867,300

平成3年度 「隣人をよく知ろう」プログラム
翻訳出版促進助成の運営および選考について

◎5カ年計画案(南アジア50冊、東南アジア26冊の助成対象リスト)の作成

平成2年度に、それぞれ3回づつ行った東南アジア委員会、および南アジア委員会において、平成3年度から5年間の助成対象となる書物(適当な翻訳者を含む)のリストの作成を行った。併せて、南アジアに関しては従来財団では経験がないため、リストの書物の出版を希望する出版社を募ることを目的に、出版社説明会を南アジア委員の出席を得て開催した。(大手の出版社を含む15社が参加)。東南アジアについては、従来からプログラムに参加している出版社を中心に呼びかけを行い、また東南アジア委員会の委員に心当たりの出版社に声をかけてもらった。一応、2月末をもっていったん締め切ったところ、76冊中60冊に対しては出版希望があり、希望が重複する例も多かった。残りの16冊は、引き続き委員を中心に引き受ける出版社を探した結果、現時点で全ての本について出版社が見つかる見通しがほぼついている。

合計76冊の助成対象リストは、第59回理事会において承認された。これらの本については特別な事情のない限り助

成を行うことを原則とするが、予定出版年度の前年度に申請書を提出してもらい、委員会における審査、理事会による決定を経て助成を行うこととする。

◎日本向け

本年度は、平成3年11月から平成4年10月までの1年間に出版予定の13冊(東南アジア5冊、南アジア8冊)の申請があり、東南アジア委員会および南アジア委員会において審査を行い、特に問題はなかったためこの13冊(助成金額合計、27,410,000円)を助成対象候補に選定した。

◎東南アジア・南アジア向け

本年度は、東南アジア4件9冊、南アジア2件2冊の申請があり、東南アジア委員会および南アジア委員会において審査を行い、6件11冊(助成金額合計、103,600ドル)の助成対象候補を選定した。フィリピン向け1件(本年度が最終年度)がプロジェクト方式の助成であるが、他は全て個別方式である。

◎東南アジア・南アジア相互間

本年度は、東南アジア8件16冊の申請があり、東南アジア委員会において審査を行い、8件10冊(助成金額合計、72,000ドル)の助成対象候補を選定した。全てが、個別方式である。

(国際助成部門 牧田・記)

1991年度 『隣人をよく知ろう』プログラム助成対象一覧

「翻訳出版促進助成」日本向け [11件; 2,741万円]

No	日本語仮題名(国名)	訳者名	出版社名	助成金額 (万円)
1	北インドの思想と文学の底流(インド)	坂田 貞二、宮元 啓一 橋本 泰元	春秋社	196
2	ジャグモーハンの死(インド)	大西 正幸	めこん	156
3	マレナード物語(インド)	井上 恭子	めこん	128
4	シンガポールの現地企業者精神(シンガポール)	岩崎 育夫	井村文化事業社	209
5	多民族国家マレーシアの社会構造(マレーシア)	小野沢 純、吉田典巧	井村文化事業社	196
6	ゴバル・バラタム短編集(シンガポール)	長岡 みゆき	段々社	196
7	美わしのベンガル(バングラデシュ)	臼田 雅之	花神社	112
8	略奪の政治—マルコス体制下のフィリピン(フィリピン)	伊藤 美名子	同文館出版	108
9	新しいインド近代史—下からの試み(インド)	長崎 暢子、臼田 雅之 中里 成章、粟谷 利江	研文出版	582
10	或る女流詩人の告白的自伝(インド)	辛島 貴子	平河出版社	140
11	カーマングカのニーティ・シャーストラ(政策論)(インド)	上村 勝彦	平凡社	168
12	亡き人(スリランカ)	野口 忠司	南雲堂	201
13	ホイアン国際シンポジウム(ヴェトナム)	日本ベトナム研究者会議 (責任者:古田元夫)	穂高書店	349

「翻訳出版促進助成」東南アジア・南アジア向け [6件; 103,600ドル]

No	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
1	<i>La revolucion de los precios en la cuenca del pacifico 1600-1650</i> のタイ語への翻訳と出版	チトラボン T.	チェンマイ大学人文学部歴史 学科 講師	7,600
2	フィリピン向け『隣人をよく知ろう』翻訳出版共同プロジェクト [継-4]	F. S. ホセ	ソリダリティ財団 専務理事	53,500
3	<i>The Fall of the House of Nire</i> (檢家の人々)、 <i>Ancient Tales of Japan</i> のヴェトナム語への翻訳と出版 [継-5]	N. D. ディウ	国立社会科学センター社会科 学出版局 局長	16,300
4	<i>Democracy and Leadership</i> (『インドネシア民族主義研究— タマン・シスワの成立と展開』) のインドネシア語への翻訳と 出版	スバギオ S.	バライ・ブスタカ 図書評価 委員会 委員長	7,700
5	<i>The Family</i> (『家』) のベンガル語への翻訳と出版 [継-2]	F. ラッピ	アフメット記念財団 専務理事	8,600
6	<i>Botchan</i> (『坊ちゃん』) のシンハラ語への翻訳と出版 [継-5]	D. A. ラジャカルナ	日本文学翻訳委員会	9,900

「翻訳出版促進助成」東南アジア・南アジア相互間 [8件; 72,000ドル]

7	<i>Sangha, State, and Society: Thai Buddhism in History</i> のマレーシア語への翻訳と出版	ムハメット Y. I.	マレーシア国立大学社会人文 科学部 副学長	6,500
---	---	-------------	--------------------------	-------

No	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
8	<i>The History of Shan</i> のタイ語への翻訳と出版	ソンヨート W.	社会科学教科書推進プロジェクト財団 事務局長	4,300
9	<i>Falima</i> のマレーシア語への翻訳と出版 [継-2]	ロスリ B. O.	社会分析研究所 所長	7,200
10	<i>Asean Financial Cooperation</i> および <i>Restructuring the Developing Economies of Asia and the Pacific</i> のヴェトナム語への翻訳と出版 [継-4]	D. H. ヒエップ	国立社会科学センター、アジア太平洋研究所 所長	15,700
11	<i>In the Same Hamlet</i> のヴェトナム語への翻訳と出版 [継-4]	P. D. ズオン	国立社会科学センター、東南アジア研究所 所長	10,600
12	<i>Mahabharata</i> のインドネシア語への翻訳と出版	ユス R.	プスタカ・ジャヤ 社長補佐	7,200
13	<i>The Woman Who Had Two Navels</i> および <i>Seorang Tua di kaki Gunung</i> のタイ語への翻訳と出版	サンティスーク S.	サティエンコーセット・ナーガプラティール財団 事務局長	14,200
14	<i>Indonesian Folk Tales</i> のラオ語への翻訳と出版	フンパン R.	ラオス社会科学委員会、芸術文学言語研究所 所長	6,300

最近の報告書から

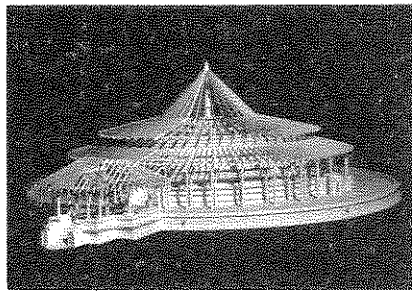
下記の報告書が印刷になりました。

入手希望の方は、送料分の切手を同封の上、「財団レポート係」まで封書にてお申込み下さい。

009 スリランカの古代建築—アヌラダプラ後期～ポロンナルワ期（7世紀～13世紀）の寺院建築遺構の設計方法と復元に関する考察および修復方法への提言—
（早稲田大学アジア建築研究会：代表・中川武 編・刊、A4判 304頁、'91.5、送料 310円）

紀元前3世紀に仏教が伝来したスリランカでは、アジアの各地に伝播した仏教文化の初源的な特質を、今でもより純粋に保持している可能性がある。そのような観点から、当研究会ではこの研究に着手した。

研究はまず、標題の時代の30の寺院遺構を実測調査し、その資料をもとに建築の設計方法を分析し、主なもの12の遺構については当初の姿の復元考察まで行った。設計方法の分析に当たっては、インドの代表的な建築書『マナーサーラ』に



記された設計方法も検討し、また復元考察に当たっては、周辺地域に現存する建築の構法も参考とした。

アジアの各地では、19世紀末以来の発掘調査によって遺構の形式的分類や編年をテーマとした研究はこれまでも行われてきた。しかし、設計手法まで考慮した建築学的な復元研究は、ほとんどなされていない。そのために、近年盛んになりつつある修復や復元事業においても、必ずしも正確さを期することが難しいという状況がある。その面でも、この研究がアジアの文化遺産の保存や修復にとってもつ意義は大きい。図版や寸法表も豊富で、今後の研究の基礎資料としても役立つ。

019 多文化社会への華僑・華人の対応—日本・台湾における華僑学校卒業生の動向分析—（杜國輝・編著、横浜中華学院校務研究室・刊、B5判 174頁、'91.7、送料 260円）

著者等は1989年度の研究助成で、華僑学校卒業生を対象としたアンケート調査を行った。その調査項目は一般対象が78問、帰化集団にはさらに帰化関連19問が加わる。このように膨大な質問にもかかわらず、5割を越える高い回収率を得ることができた（回答総数 399）。

この報告書は、その回答を卒業生の母校への回帰意識、生計、家族関係、中国人意識、華僑・華人の文化、人的ネットワーク、定住意識、日本への帰化、について分析し、考察を加えたものである。

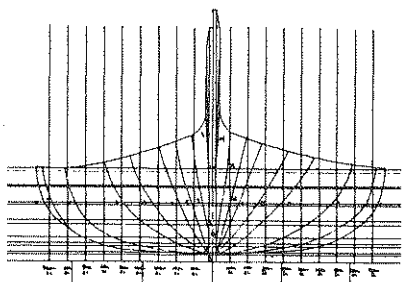
華僑・華人が自ら研究主体になって日本社会における華僑・華人の意識を明らかにした点で、この報告は貴重な実証データを提供してくれる。それはまた、華僑・華人の目を通して日本社会を逆照射したのとも言える。特に、帰化に対する意識にはその感が強い。多文化社会の

実現に向けての、多くの課題を読み取ることができる。

北西太平洋地域における在来型沿岸漁船漁具の比較研究（東南アジアと日本の漁船）〔和・英文併記〕（東南アジア漁船研究会：代表・柴田恵司 編・刊、A4判 542頁、'91.9、送料 460円）

東南アジア諸島の伝統的な漁業を支えてきた在来型漁船も、近代技術の導入などによって最近ではその船形と構造を次第に変えつつある。その今後の変化の方向を、地域の文化や海況に適したものとするためにも、在来の小型漁船の実態を記録しておくことが重要である。

このような観点から行われたのが、フィリピン、インドネシア、マレーシア半島東岸、パプア・ニューギニアでの実態調査で、1986年から90年にかけて、現地研究者の協力のもとに、在来小型漁船の動態と船形の調査が実施された。同時に比較の視点から日本の和船についても研究が進められた。



この報告書の前半は、東南アジアの実態調査の成果を多数の計測図表や写真とともにまとめたものであり、後半は、沖繩のサバニについての同様の調査結果と和船の性能に関する実験結果が報告されている。さらに末尾には、柴田氏が別途行ってきた東アジアと東南アジアの泥ぞりの調査が掲載されている。

変化の只中にある現況の把握は、今後の東南アジア等における漁業振興のためにも貴重な情報になろう。

Vegetation of Mount Kinabalu Park Sabah, Malaysia—Map of Physiognomically Classified Vegetation—〔英文〕

（北山兼弘・著、イースト・ウェスト・センター・刊、A4変型判 45頁、'91.9、送料 200円）

この報告書の主役は、マレーシア・キナバル公園における現在の植生タイプとその分布範囲に関する地図(1:100000)だ。

キナバル山は、東南アジア第一の高峰(4,101m)で、複雑な地質や、低地から熱帯高山帯までをも含んだ数多い生息型に支えられ、4000種あまりの多様な植物が生息している。しかし、こうした生物の多様性も、商業的な盗掘、伐採、および焼畑の浸入によって日々失われつつある。その一因としては、公園管理に必要な不可欠な基礎的な生態学的情報の不足による政策づくりのまずさが挙げられる。

著者は、1989年度の研究助成により、同山における植物の構成種や群落の構造、および土壌や気候環境などについて全体にわたる調査を実施した。この植生図は、それらの結果にもとづき、計21の植物群落の分布について図化したものである。

キナバル山の生物の多様性と原生的生態系の保存政策への応用のみならず、基礎的生態学へも貢献する貴重な資料となろう。

新刊紹介

『カナダの日本語新聞

—民族移動の社会史—

新保満・田村紀雄・白水繁彦・著

PMC出版・刊('91.5)

四六判 290頁、3,605円(税込)

本書の目的は、カナダの日系新聞との関連を通して、日系社会を歴史社会学的に解明することにある。

対象となった日系新聞は、「エスニック

プレス」で、移民のホスト社会への「適応」に際して必要な情報を提供する等、異文化社会への「同化」の促進を目的としている。

ただし、「同化」には文化的・構造的という2つのレベルが存在すること、同一民族の中にも「反同化」という負の要素

がいり混じることが、仮定されている。（このことは、第7章で他民族のプレスとの比較を行い、その性格を分析する際に重要となってくる。）

さて、日系新聞へのニーズは、政治的、法的、経済的、社会的、文化的条件の変化により、減退するというのがここでの結論である。これら5つの諸条件は、日系社会を「中央—周辺」モデルにおける周辺部として捉えるという分析方法によって抽出されている。

簡潔に言うと、政治的条件は日加関係の良否などであり、法的・経済的条件はコインの表裏と同様不可分なもので、社会的条件は新規移民の消長に影響をうけ、文化的条件は言語の問題である、としている。そして、①日系人への排斥の弱まり、②日系人の経済的地位の上昇、③新規移民の減少、④通信テクノロジーの発達、という4つの仮説を提議し、過去の主要日系新聞（労働日報、日刊民衆、ニューカナディアン等）の内容を時系的に吟味することで、先の結論を実証的に立証している。

著者の言うように、日系紙が辿った軌跡は、日系人がカナダで辿った歴史の忠実な反映であるわけだが、同時に、それ等を分析することは、今後の国際社会におけるメディアのあり方を考えていく際にひとつのヒントとなり得るだろう。

なお、本書は、1981、82年度の2度にわたる研究助成の成果にもとづき、とりまとめられたものである。(K. T.)

『カンボンの世界』

—ジャワの庶民住宅誌—

布野修司・著

PARCO出版・刊(91.7)

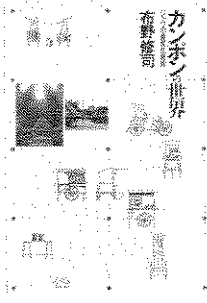
A 5判 346頁、3,200円(税込)

インドネシアの大都市の内部や周辺には、カンボンと呼ばれる木造の住宅密集地区が存在し、ひとつのムラ社会を形成している。1983、84年度の研究助成によってインドネシア研究者との共同によるカンボンの実態調査も行われたが、その成果はその後の蓄積とともに、「インドネシアにおける住居環境の変容とその整備手法に関する研究」と題する博士論文にまとめられ、1991年度の日本建築学会賞を受賞した。

本書は、その論文をもとに再構成した著作で、第I章は、スラバヤの4つのカンボンの生活の様々な側面を描きだしており、

第II章は、このようなカンボンがどのようにして発生してきたかを、インドネシアの植民都市形成史と関連づけながら系統づけている。住居(ルーマ・カンボン)を扱った第III章では、実測調査に基づいて住居を類型化し、その変容過程を分析、さらに住環境改善事業としてのKIP(カンボン・インフラ・プログラム)の実施状況や問題点について論じている。

各章とも多数の実測図とともに豊富なスケッチや写真が用いられており、カンボンというジャワの基層社会を視覚的にもよく伝えてくれる。(Y. Y.)



『大人になった障害児』

—長期予後の追跡から—

小林提樹・編著

メジカルフレンド社・刊(91.7)

B 6判 378頁、2,500円(税込)

編著者の小林氏がこれまでに診断した心身障害児(者)は約1万5千人にのぼる。1978年度の研究助成以来、そのうちの1万3千人のカルテが収集・整理され、そのうちの1,045名の現状を確認、予後を追跡することができた。本書は、その追跡調査と小林氏の心に刻まれた体験を共同研究者の協力によってまとめたものである。

第I章は、1,045名の患者の当初の診断と現状の調査から、障害起因、心身の発達と障害の変化、社会的適応状況などを数量的に分析した研究論文である。

第II章では、そのうち脳炎後遺症、脳性麻痺、自閉症、重複障害、精神遅滞の5人の障害児について、出生から大人になった現在までの長期的な症状の変化や社会適応の状況を詳細に記録する。

第III章では、療育にあたる専門職業人、障害児(者)の父母、障害児(者)に係わるボランティアのそれぞれの係わり方について、長年の体験に基づく教訓が率直に述べられている。

直接の執筆は、6名の共同研究者が分担して行っているが、それぞれの内容には、細部にいたるまで小林氏の考えや思想が色濃く反映されている。心身障害児

(者)の療育という未開の分野を開拓してきた小林氏の、50年以上にわたる全体験を圧縮した書と言ってもよいであろう。

(Y. Y.)



『アメリカに生きる日本的生産システム』

—現地工場の「適用」と「適応」—

安保哲夫・板垣博・河村哲二・公文博・著

東洋経済出版社・刊(91.9)

A 5判 294頁、3,900円(税込)

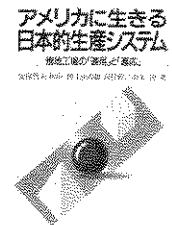
著者等は、すでに1988年に、今回と同じ出版社から『日本企業のアメ리카現地生産—自動車・電機：日本的経営の「適用」と「適応」』を出版した。今回の著作は、その内容をさらに総合的に発展させて行われた現地調査の結果で、1987年度研究助成の成果の一部である。

調査は、アメリカに進出した自動車・電機関係の34の日本企業を対象に5名の共同研究者が見学とインタビューを行い、6つの事項について

「適応」と「適用」の程度を評価するという方法で行われた。すなわち、独自の国際移転モデルを作成、「作業組織とその管理運営」「生産管理」「部品管理」「参画意識」「労使関係」「親—子会社関係」の6つの事項について、日本的経営の「適応」の程度と現地への「適用」の度合いを数量化し分析した。その評価基準の確立のためには、日本にある日本の工場、アメリカにあるアメリカの工場についての訪問調査も先行して行われた。

この研究では、ハイブリッド度(全適応を0、全適用を5とした場合の現地適用度)という指標を用いて、その度合いが企業の特質や企業活動の側面でのどのように異なっているかを具体的・定量的に分析・考察している。本書独自の特徴と意義は、この点にあらう。なお、全体としての総合的な値は3.3と算定し、日本企業の適用努力を高く評価している。

(Y. Y.)



公募のお知らせ

トヨタ財団では、現在、以下の公募を行っております。応募要項等、関連資料の入手希望の方は、お葉書にて各係宛てお申し込みください。

●1991年度市民活動助成（第2期）

内 容 活動の交流や促進に役立つプロジェクトに対する助成
 公募期間 1991年12月15日まで
 助 成 金 1件につき100～200万円程度
 助成期間 1992年4月1日より1年間
 連絡先 市民活動助成係

●第6回市民研究コンクール

“身近な環境をみつめよう”

内 容 「身近な環境」に関する研究プロジェクトへの助成
 公募期間 1992年1月15日まで
 助成金等 最初の予備研究には1件につき60万円程度。その後の本研究には同500万円程度。本研究終了後、最優秀賞と優秀賞を選出し授賞。
 助成期間 予備研究は1992年4月1日より8ヶ月間。本研究は1993年4月1日より2年間。
 連絡先 市民研究コンクール係

(*) 1971年にアメリカ・ボストンに設立された民間非営利の組織で、現在、アメリカの他、世界各国にそれぞれ独立した組織を持ち、生態学や地球科学、人間科学等のフィールド・サイエンスに携わる世界中の研究者に対して資金の提供を行っている。

◎助成財団資料センター

「1991年度 会員の集い」

日 時 1991年11月20日(水)
 13:30～17:30
 場 所 経団連会館10F 1002号室
 (東京都千代田区大手町)
 内 容 公開シンポジウム『フィランソロピーの意義と役割—改めて民間財団の在り方を問う—』など
 参加費 8,000円 (懇親会費を含む)
 問合せ先 (財)助成財団資料センター
 (☎ 03-3350-1857 伊藤)

報告会のご案内

当財団では、この秋、以下のとおり報告会を予定しております。参加ご希望の方は、お葉書にて氏名、連絡先(住所・電話番号)、および参加希望の報告会名を明記の上、トヨタ財団報告会係宛てお申し込みください。(参加無料。折返し、詳しい資料をお送りいたします)

◆シンポジウム「身近な環境をみつめよう」—トヨタ財団研究コンクールの10年とこれから—

日 時 1991年11月16日(土)
 13:10～17:30
 場 所 お茶の水スクエアC館3Fホール(東京都千代田区神田)
 内 容 研究報告:「鳥の目から見た都市環境」、パネルディスカッション(日高敏隆、他)

◆研究経過報告会

日 時 1991年11月28日(木)
 ～同29日(金)
 場 所 新宿三井ビル27F会議室
 (東京都新宿区西新宿)
 内 容 1990年度研究助成・第Ⅲ種研究を中心とした経過報告

Information

◎アースウォッチ(*)・セミナー

日 時 1991年11月12日(火)
 14:00～17:00
 場 所 国際文化会館・講堂
 (東京都港区六本木)
 内 容 アースウォッチの活動に関する報告と質疑応答(参加無料)
 問合せ先 (財)旭硝子財団「アースウォッチ・セミナー係」
 (☎ 03-3285-0591 平野)

編集後記

▶ご覧のように、今回もたくさんの助成対象が決まりました。テーマの面からだけでなく、それぞれのプロジェクトの背景には、何等かの形で現在の社会状況を反映しているものが多いようです。
 ▶世界は今、いわゆる民主化の方向に進みつつありますが、見方を変えれば、市民レベルで、新しい人間社会の探求と模索が始まったとも言えるでしょう。
 ▶「共生」と「変革」の意識に根ざした自発的な意志で行動する人々こそが、それらの担い手となっていくでしょう。財団としては、こうした人々を今後ますます応援していきたいものです。



このレポートを継続してご希望の方は、お葉書にて財団宛お申し込みください。

発行日 1991年10月25日
 発行所 財団法人 トヨタ財団
 発行人 山口日出夫
 編集者 渡辺 元
 印刷 真友工芸株式会社